

トム・ブラウン、と言えば、例えば本好きな方ならば「…の学校生活」と受けてくれるであろう。

19世紀英国の紳士養成機関、パブリックスクールでの生活を描く、トマス・ヒューズの古典的名作。

しかし、ファッション好きな人ならば、その名を聞いて、足首ま

男は足首見せるもの？

るだしのちんちくりんのスーツをきつちりと着た、生真面目(まじめ)そうな男の姿を連想するだろう。この男性、2006年度の米国ファッションデザイナー協会賞で、メンズ部門のデザイナー・オブ・ザ・イヤーに選ばれている。トラッドの牙城(かじょう)のような「ブルックスブラザーズ」でもゲストデザイナーと

して迎えられた、今もつとも注目浴びるデザイナーである。

トム・ブラウンのスーツは、一見、子供服っぽい。上着の丈も袖も短め、何よりもパンツ丈がつんつんで足首まるだし。デザイナー本人は靴下で覆うことすらしない。でも他ならぬこの服が、80

年代のアルマーニ以来の衝撃をもって男性服を変える革命的スーツ、と位置づけられている。

男の足首まるだしなんて、ありえるのか？ あるセレクトショップのディレクターに聞いてみる。

「トムの影響は大きいですね。少なくとも、パンツの丈は確実に短くなっていますよ。これまでは

ココロのココロ

中野香織の

靴を少し覆う丈がノーマルでしたが、今シーズンには、靴を全部見せる丈が増えていきますね」とのお答え。

モードの世界の話ではある。しかし、男子中高生の間で、短いソックスをはいて足首をチラ見せすることが流行していることも気になる。アルマーニのスーツが量販店のスーツのシルエットを変えたように、トムのスーツが日用品としてのスーツの形にも影響を及ぼしていく可能性は、ないとは言いが切れない。ましてや足首見せに抵抗がない今の高校生がスーツを着る年代になれば……。男が足首見せるなんてありえない？ でも、19世紀のプーチ紳士トム・ブラウンもきつと「男が帽子をかぶらないなんてありえない」と信じ込んでいたのです。

(服飾史家)